

# 絵画修復家の アトリエから

加賀優記子……絵画修復家

私はこの原稿を大晦日の新幹線の中で書いています。

毎年の事だけれど、すれすれセーフで修復の納品を済まし、30日あたりでもう何があってもお正月だあ！という、とりあえずシアワセな（半分やけくそで、切れ気味の）気持ちになります。と、言う事で、私もこれから3日くらいはお休みです！

例えば今年の後半は一度も休んでなかった。土、日があれば、それは修復デー。何しろ油彩画の直しに加えて、日本画、版画がアトリエにやってくる。つまりそれは、お天気の日が朝から「版画洗い」を意味しているのだ。

何故、お天気の日に朝から、なのか。それは、干びようを天日に乾すのと同じ。紙の繊維も太陽光に含まれる紫外線によって漂白される。これを利用して、黄ばんでしまった版画などをバットに水を入れ、そっと紙を浮かべて暫く置く。私のところでは、酸化した紙をまず脱酸処理をし、ペーパーをチェックしながら水酸化カルシウムを少量溶かした溶液に作品を入れる事が多い。作品は、紫外線とこの薬品の効力によって穏やかに漂白される。紫外線の量は、午前中から昼にかけてが、具合がいいようだ。冬は、3時ごろではもうすでに黄色い西日に近くなり、効力が薄くなってしまうからだ。

どな、と、試してみたけどダメ。きつと断然紫外線量が足りないんでしよう。やっぱり、気持ちの暗いあなた、精神科なんて行く前に、早起きをして朝の散歩デスヨ！それとも、ウチで一緒に版画でも洗いますか……。

うちの工房には補彩用に、とっても高かった（約30万円もした！）太陽自然光ライトがある。これは、ある番組でやっていたのだが、精神科などでうつ病患者の治療に使われているらしい。なんでも、このライトが朝の光と同じくらいのルクスを持っていて、これが坑うつ脳内物質の分泌を促すらしい。

もしかすると、うちの仕事は、うつ病の人には打ってつけなのかもしれない。普段は工房のビルの屋上にバットを並べてやっていたのだけれど、何しろ水回りが屋上に無いので、水をバケツに入れて何往復も階段を上らなくてはならなかった。……実は最近引越して、この家の屋根はだ

うちの工房には補彩用に、とっても高かった（約30万円もした！）太陽自然光ライトがある。これは、ある番組でやっていたのだが、精神科などでうつ病患者の治療に使われているらしい。なんでも、このライトが朝の光と同じくらいのルクスを持っていて、これが坑うつ脳内物質の分泌を促すらしい。

見渡せるうちの屋根の上にいる事が多い。「いる事が多い」と言うのはつまり、版画をバットに入れている間中はじつと側に付いている他ない、という事。なんと脳内物質の分泌に打ってつけなこと！（しかしお蔭で私は版画のシミはとっても、自分の顔にはシミができる……。）

そうかあ。だからいつつも私ってメチャ明かかったのね。知らず知らず補彩をしつつどんどん明るくなってゆく私……っていうのもコワイけど、高かった分、それを知ったときはなんだか元が取れた気がした。それならば！もしかして版画の洗いにも使えないかな、もっと元が取れるんだ

庭にはじめてマヨネーズのチューブが落ちこちっていた日、実は私はきつと向かいのおばさんがすっごく嫌な人で、越してきた人をゴミの日にゴミを投げ込んでいじめののかな、と考えて落ち込んでしまった。これがカラスの仕業と知った時は可笑しくなって笑っちゃったけど、でも、そのうち

おまけに、うちには時々ナゾのカラスがやって来る。（まだ姿は見えない）こいつはどうやらマヨネーズフエチで、時々庭の芝生の上や、屋根の上にすっからかんになったマヨネーズのチューブを置いてゆく。（一度も、ケチャップだった事は無い。どうしたって、マヨネーズでなくては嫌らしい。）もしも、こんなチューブをバットに落とされたらたまったものではない。とにかく、版画の洗いには心配が尽きないのだ。

脆弱になった紙はいつバラけてしまうかもしれないし、紙に描かれた水彩顔料は、日光で褪せてしまいがち。慢心は禁物。不測の事態に備えて、紙に起きる現象を、ずうっと注意深く観察している必要がある。特に紙の作品は、秒速で一点一点が、その反応の出方が違うのだから……。

このように、紙の仕事では（油絵もだけど……）いつも大変に緊張して仕事をしている。それにしても、ご近所の方々は、引越し早々変なヤツがやって来たと思っっているかもしれない。屋根の上で日がな座り込んでいるなんて。庭にはじめてマヨネーズのチューブが落ちこちっていた日、実は私はきつと向かいのおばさんがすっごく嫌な人で、越してきた人をゴミの日にゴミを投げ込んでいじめののかな、と考えて落ち込んでしまった。これがカラスの仕業と知った時は可笑しくなって笑っちゃったけど、でも、そのうち

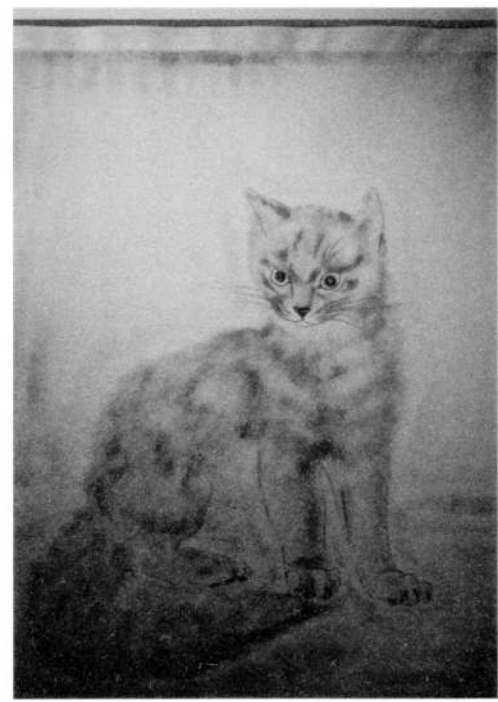
と、言う事で……じゃじゃーん、新年が明け、2002年の到来です。明けましておめでとうございませう！

またしても帰りの新幹線の中でこれを書いていきます。私は阿蘇で大雪に降られ、車で滑ってキマシタ。（はは）九州って、案外寒いところなのかしら。

留守中、うちの猫ちゃんは どうしていたでしょう。あ、猫ちゃんと言っても、紙に刷られたほうのですけれど。通常はかなり乾いた状態でもそうつと重しを掛けられるのですが、この紙はかなりあ

庭にはじめてマヨネーズのチューブが落ちこちっていた日、実は私はきつと向かいのおばさんがすっごく嫌な人で、越してきた人をゴミの日にゴミを投げ込んでいじめののかな、と考えて落ち込んでしまった。これがカラスの仕業と知った時は可笑しくなって笑っちゃったけど、でも、そのうち

と、言う事で……じゃじゃーん、新年が明け、2002年の到来です。明けましておめでとうございませう！



ウチで最近あばれている猫ちゃん達。（フジタツグジエッチング）

だめすかすのに時間がかった。乾燥はしきっていたけれど、まだざりざりの状態で、出かける時にはまだガラスを載せて来たのです。それで、残った家人にしきりに電話で尋ねてた。レストランでも、何処でも。「ねえ、猫ちゃん、暴れてる？」人が聞いたら、当然飼いの猫の事だっと思うだろうな。

切に使っていた。つまり、はじめは薄い濃度で、徐々に膠の濃度を上げること、薄い塗りを重ねる事など。こうした伝統的技は油彩画の世界でも途絶え、物質の特質を熟知し、繊細で崩壊しにくい被膜を形成する術は忘れられた。精神の開放と、表現の自由。これも時代のゆえか。二〇〇二年だしね。

ちなみに、もうすぐドラクロワの作品を国立文化財研究所にレントゲンを撮りに持っていかなくてはならない。こういうのは私、「ドラちゃんレントゲンに連れて行く」って言うんだけど……。もう一匹の猫のコトか!?

家に戻ったら、明日からは徐々に仕事を再開しよう。お正月用にちようどいいやと思って置いてある仕事有二点。片岡球子の金地の色紙作品と、やはり金を貼った絹本に描かれた山口逢春の岩絵の具の作品。どっちも新春気分を盛り上げてくれる華やかな作品です。（こういうのを借景と言う。）飾っている訳でなくても、名画があると部屋の空気がピリッと変わる。こういう事が、修復家の役得、醍醐味です。

しかし、球子さんの作品はいつも大変。金箔という剥がれ易い地の上に思いつき厚塗りした胡粉が載っている。しかも、色紙が反ってきている。昔の日本画家は、胡粉や膠の使い方を熟知し、適

かがゆきこ●絵画修復家。大学卒業後、絵画の古典技法を学ぶためにパリに留学。ルーブル美術館の絵画修復員を経て、現在は鎌沼で修復工房を主宰。